

企画展示 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

ライブラリープラザ 1F

■ 地域の観光紹介 第二弾 京都



京都市からのご案内

コロナ禍では、京都を代表する四大大行事が相次いで中止となっていました。今年は3年ぶりに本来の形で祇園祭や五山送り火が行われました。秋も、びわ湖疏水船(表紙)や時代祭をはじめ、各地で年中行事やイベント等が予定されており、賑わいが戻ってきています。

京都市と京都市観光協会では、持続可能な観光の実現に向けて、観光事業者・従事者、観光客、市民の皆様大切にしたいことを示した「京都観光行動基準(京都観光モラル)」の普及を進めている他、時間帯別観光快適度の予測や市内主

要エリアのライブカメラ映像をご覧いただける「京都観光快適度マップ」などを公開しています。

また、混雑を回避しつつ、より質の高い体験を楽しんでいただける商品として「夏の旅」「京の冬の旅」「事前予約で楽しむ京都旅」「とっておきの京都プロジェクト」「京都朝観光・夜観光」などの個人向け観光プロジェクトを企画しています。パンフレットや関連図書とともに、秋の京都を感じてみてください。

協力：(公社)京都市観光協会

*京都市観光協会には当財団研究員も出向しています。

エントランスギャラリー 1F

■ 「観光文化の創刊からこれまで～「特集」からみる日本の観光と社会の潮流」展示中

旅の図書館1階のギャラリーには、8～11月までの間、当財団機関誌「観光文化」を創刊から振り返る企画展示を行っています。

「観光文化」の創刊は1976年。創刊以来、その時々々の観光のトピックを特集を選び、その分野に造詣の深い方々にご執筆いただく形でまとめてまいりました。

創業100周年にあたる2012年の10月(215号)から、機関誌としての役割をより明確にすべく、誌面の刷新を行いました。具体的には、当財団の調査研究・事業活動を基に

特集テーマを設定し、研究員が執筆にあたり、外部の専門家の方々のご寄稿、ご協力をいただきながら、観光文化発展のための論考、提言の場となるような誌面づくりを目指し、今日に至っております。

この10月に発行した「255号」では、「フリーズ状態からの再起動を目指して～コロナ禍での現状と課題Part4～」を特集テーマに発行しました。

全ページを当財団のホームページにて公開しております。
<https://www.jtb.or.jp/book/category/tourism-culture/>



Information

『日本鉄道大地図館』

鉄道開業150周年を記念して

～旅の図書館が所蔵する古地図も掲載されています～



今尾 恵介(監修) 小学館
2022年9月 A3版 418頁

1872年に鉄道が開業してから今年で150周年。この間に作られた様々な鉄道地図からおおよそ150点を厳選。見開き単位で時系列に全国と部分を掲載し、見どころをわかりやすく解説。旅の図書館が所蔵する「MAP OF JAPAN FOR TOURISTS (明治30年、喜寶会)」、「山陽道パノラマ地図(大正11年、金尾文淵堂)」、「東京附近パノラマ地図(大正11年、金尾文淵堂)」も掲載されています。

当館では実物を閲覧することも可能です。ぜひ来館ください。

古書展示ギャラリー(予告)

～古書からひもとく戦前の京都観光～

京都市は、昭和5年に日本で初めて観光課ができた自治体です。現在と同様、日本を代表する観光地として国内外から認識されていた他、観光行政や同業者組織の活動においても長い歴史があります。

次回の古書展示ギャラリーでは、意外と知られていない戦前の京都観光を古書からひもといていきます。

<表紙のご案内> びわ湖疏水船 秋季運航中！(10/1～11/30)

琵琶湖と京都を結ぶ人工運河「琵琶湖疏水」を巡るびわ湖疏水船は、2018年に67年ぶりに復活しました。京都市の発展を語る上では欠かせない琵琶湖疏水と、紅葉が彩る山科を一度に楽しめるびわ湖疏水船は新たな京都観光のプログラムとして注目されています。



たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 21

2022年10月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

ツーリズムEXPOジャパン2022 ～4年ぶりに東京で開催されました～

9月22日より25日まで、「ツーリズムEXPOジャパン2022」が、東京ビッグサイトにて4年ぶりに開催されました。ブランクを感じさせない連日の大盛況となり、台風の接近にも関わらず約12万4千人を超える方々が来場されました。

新型コロナウイルスの影響によりグローバルな人々の移動も制限されてきましたが、日本をはじめとして、まさにこれからの本格的な国際交流の再開が予想される4日間となりました。日本人の国内旅行・海外旅行のみならず、訪日インバウンドの復活に向けて、新しく多様な旅のスタイルも提案されました。国内地域や観



光関連団体のみならず海外の国々や観光事業者による新たなツーリズムテーマに特化した旅行企画や最新の観光地情報を整備し、皆様に提供しておりますので是非ご来館ください。



青山学院大学

～コミュニティ人間科学部長の小田教授と学生の皆さんが9月中旬にご来館されました～

当日は、地下1階のライブラリーホールにおいて館長の吉澤より「旅の図書館」の概要を、その成り立ちや社会的な役割、国内はもとより海外との“つながり”について解説させていただきました。

見学では、古書や稀観書、専門書を取蔵するメインライブラリー(地下1階)、ガイドブック等を中心に揃えたライブラリープラザ(1階)をご案内しました。

その後は、関心のある本を自由に手に取ってご覧いただきました。学生の皆様からは「このような専門図書館があることを初めて知りました。個人的にゆっくり観光の歴史などを調べにきたいです。」などの感想をいただきました。

学生の皆様のやる気や新たな気づきにつながれば、これほど嬉しいことはありません。

多くの皆様のご来館を心よりお待ちしております。



東京都庭園美術館

「旅と想像／創造」展を開催
～旅の図書館は同企画展の開催に協力しています～

東京都庭園美術館では、2022年9月23日(金)から「旅と想像／創造 いつかあなたの旅になる」展を開催。前半は「100年前の旅人朝香宮のグランドツアー」を中心に、アール・デコ作品や資料を通して紹介、後半は現代美術の作家らの作品によって現代における旅の在りようが描き出されています。装飾を抑えて重厚な雰囲気にも包まれた本館大広間には、旅の図書館からお貸出したグランドツアーに関する古書・稀観書も展示中です。

「だれかの旅は、“いつかわたしの旅になる”。展覧会で出会う旅が、想像を膨らませるきっかけとなり、あなたの新しい旅を切り開く第一歩になりますように。(同美術館HP)」との願いが込められた今回の企画展。ぜひ足をお運びください。

●会期:2022年9月23日(金)～2022年11月27日(日)57日間

●場所:東京都庭園美術館(東京都港区白金台) 本館・新館



旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



1 「集落の教科書」のつくり方

田畑昇悟 著 農山漁村文化協会 2022年3月 175頁

集落の当たり前は、移住者にとっては初めてのことばかり。地域と移住者のミスマッチを防ぎ、誰もが自分事として集落で暮らすための教科書づくりを、イチから徹底解説。関係人口増加の礎を確認するうえでも興味深い。

2 景観デザインは景観のデザインたりえたか

篠原修 著 王国社 2022年7月 285頁

橋、川、ダム、駅、通りなど、30年以上にわたって手掛けてきたデザインを、現場経験に裏打ちされた視点から具体的・総合的に検証した書き下ろし。中央線東京駅高架橋の頂は首都の顔顔りに腐心した様子が伺える。

3 四国遍路と旅の文化

西聡子 著 晃洋書房 2022年7月 208頁

四国遍路から近世後期の人びとの信心を考察。江戸時代の民衆は、どのような意識に支えられて四国遍路に赴いたのか。当時の民衆の関心や課題意識にも迫りながら旅に関する研究の視点を入れて明らかにする。

4 「復興五輪」とはなんだったのか

笹生心太 著 大修館書店 2022年8月 157頁

復興五輪を語り継ぐことで、被災地の人々に思いをはせ続ける。その役割を「大会招致のための方便」「大会推進側による被災地への押し付け」と定義して、これら2つの役割の観点から、被災地の人々の主体性を問うている。

5 自治体と大学 一少子化時代の生き残り策

田村秀 著 筑摩書房 2022年8月 278頁

人口減少により自治体も大学も縮小が予測される中で、自治体と大学の関係性をあきらかにしつつ今後の望ましい協業の方向性とゆくえをさぐる。

6 減びない商店街のつくりかた

ーリノベーションまちづくり、エリアマネジメント、SDG's

梯輝元 著 学芸出版社 2022年6月 207頁

著者が司法書士としてのプレボノ活動を経て、魚町商店街を「リノベーションの聖地」とまで言われる商店街へと作り上げてきた取り組みを、社会的課題を解決しつつ、地域コミュニティの再生を図ってきた観点から紹介。

7 人をつなぐ街を創る 東京・世田谷の街づくり報告

小柴直樹 著 花伝社 2022年7月 252頁

行政が計画を提案してから意見をもらう時代から、住民が自ら計画を策定し行政が意見を出す行政参加型が求められている。誰かを置き去りにすることなく将来に向けて議論し続けること、「人をつなぐ街づくり」を説く。

8 インターカルチュラル・シティ

ー多様性×まちづくり 欧州・日本・韓国・豪州の実践から

山崎啓造、上野貴彦 編著 明石書店 2022年8月 233頁

移住者や少数者によりもたらされる文化的多様性を脅威ではなく好機ととらえ、欧州では「インターカルチュラル・シティ」としてアプローチされている。世界各都市の事例を具体的にわかりやすく紹介する一冊。



この雑誌が面白い!

素ローカルなるこ ありのままの鳴子とあなたの交流誌

平成16年から16年にわたり、鳴子地区に暮らす約200人を訪ね、掘り起こした小さな物語。『無理をしないスローな生活、地域のありのままの暮らしを大切に、おもてなしたい』(素ローカル・なるこ宣言より)